

しょうじゅあんじゅういちめんかんのんぞう
正受庵十一面觀音像



△十一面觀音像

正受庵への伝来は明らかではないが、『飯山町誌』によると、飯山藩主松平忠俱が、恵端禪師の帰飯を喜び、禪師に一庵を造り与え、本十一面觀音像を贈ったと伝えられているが、真偽については明らかでない。

ひたすら禪の修行に打ち込んだ恵端禪師が、日夜、祈りをささげたこの像が正受庵に残されていることは、禪師の心に触れる貴重な遺産である。